

ORACLE®

# 免責事項

以下の事項は、弊社の一般的な製品の方向性に関する概要を説明するものです。また、情報提供を唯一の目的とするものであり、いかなる契約にも組み込むことはできません。以下の事項は、マテリアルやコード、機能を提供することをコミットメント(確約)するものではないため、購買決定を行う際の判断材料になさらないで下さい。オラクル製品に関して記載されている機能の開発、リリースおよび時期については、弊社の裁量により決定されます。

Oracleは、米国オラクル・コーポレーション及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標または商標です。他社名又は製品名は、それぞれ各社の商標である場合があります。

# Oracle Database 12c Release 1 (12.1.0.2) CoreTech Seminar

## Oracle Database In-Memory: 検索処理の詳細

日本オラクル株式会社

データベース事業統括 製品戦略統括本部

データベースエンジニアリング本部 Database & Exadata技術部

丹羽 勝久

2014/09/18

# Agenda

- 1 ▶ カラム型データベースの検索処理の特徴
- 2 ▶ 結合処理(join)
- 3 ▶ 集計演算処理(agggregation)

# 高速な分析をリアルタイム化する新たな技術革新

## DBにおける主要な2種類のフォーマット – ロー型 vs カラム型

### ロー (行)型



- OLTP処理を得意とするロー型

- 例: 注文データの挿入と検索
- 少数の行(ロー)と多数の列(カラム)を高速処理

### カラム (列)型



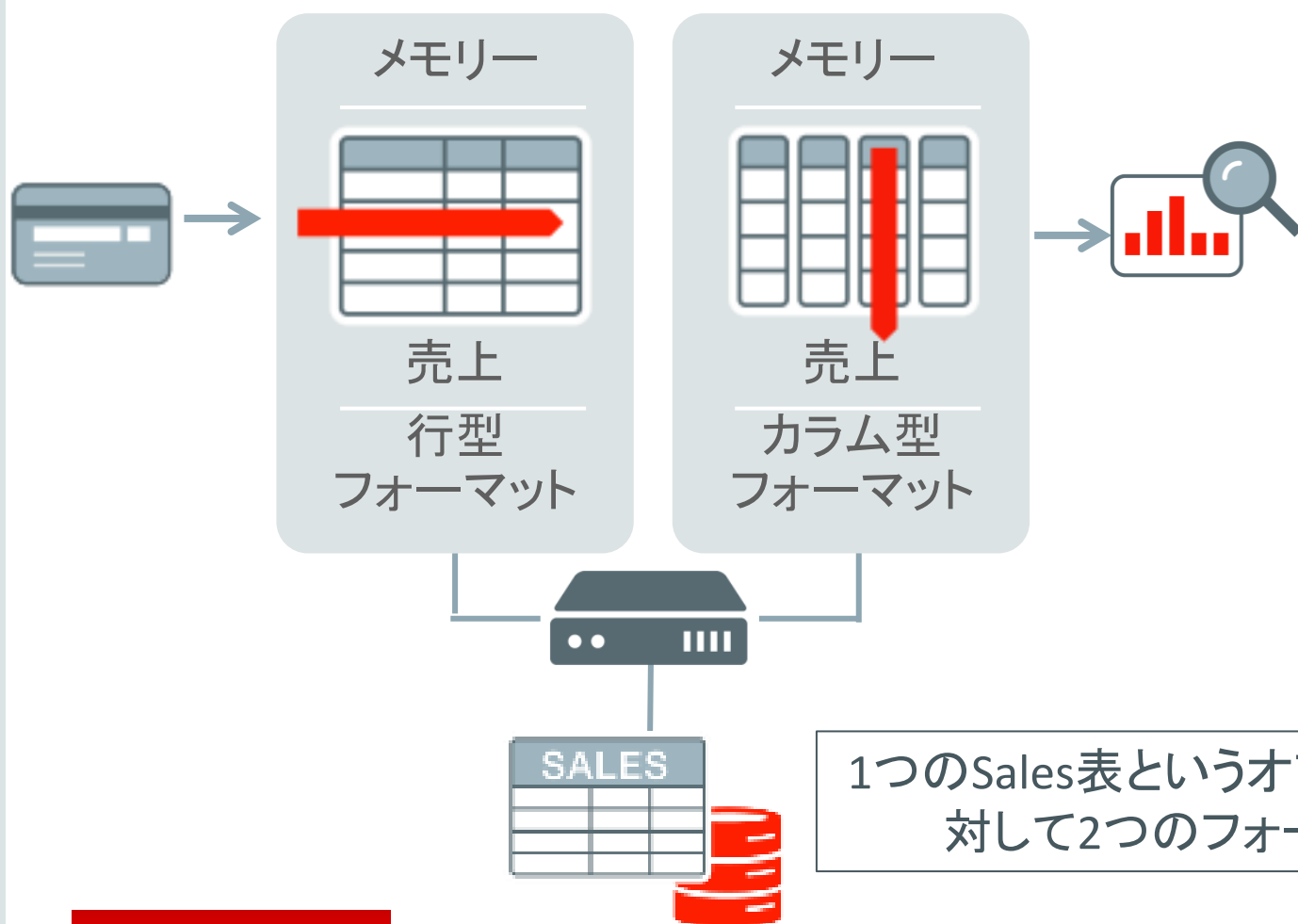
- 集計、分析処理を高速化するカラム型

- 例: 都道府県毎の売上合計のレポート
- 少数の列(カラム)と多数の行(ロー)を高速処理

Oracle Database In-Memory テクノロジーは  
各特性を持つ、2つのフォーマットを“**両方同時に**”メモリー上にロードし利用可能

# 高速な分析をリアルタイム化する新たな技術革新

## インメモリ・デュアル・フォーマット



1つのSales表というオブジェクトに  
対して2つのフォーマット

- 同一のデータを行型、カラム型双方のフォーマットで保持
  - ✓ インメモリ化指定したもののみ
- 双方のフォーマットを同時に利用可能  
トランザクションの一貫性も担保
- 集計、レポート処理はカラム型  
フォーマットに対して実行
- OLTP処理は行型フォーマットに  
対して実行

# 行型の表とカラム型の表の構造イメージ

行ストア表

	PRODID	CUSTID	ORDATE	QTY	AMOUNT
行1	123	ABC	04/02	12	350
行2	789	XYX	12/01	43	720
行3	56	GHI	11/10	2	50
行4	432	SRE	2/22	8	143

カラム・ストア表

	行1	行2	行3	行4
PRODID	123	789	56	432
CUSTID	ABC	XYX	GHI	SRE
ORDATE	04/02	12/01	11/10	2/22
QTY	12	43	2	8
AMOUNT	350	720	50	143

# 行ストアとカラム・ストアの格納イメージ

## 行アクセスのイメージ

```
Select * from t1 where .....
```

表イメージ

国	製品	売上
US	Alpha	3,000
US	Beta	1,250
JP	Alpha	700
UK	Alpha	450

行ストア

行1	US
	Alpha
	3,000
行2	US
	Beta
	1,250
行3	JP
	Alpha
	700
行4	UK
	Alpha
	450

カラム・ストア

国	US
	US
	JP
製品	UK
	Alpha
	Beta
売上	Alpha
	Alpha
	3,000
	1,250
	700
	450

行ストアは行全体の  
アクセスが効率的



# 行ストアとカラム・ストアの格納イメージ

## 列アクセスのイメージ

```
Select col1 from t1 ;
```

表イメージ

国	製品	売上
US	Alpha	3,000
US	Beta	1,250
JP	Alpha	700
UK	Alpha	450

カラム・ストアは少数の  
カラム・アクセスが効率的

行ストア

行1	US	Alpha	3,000
行2	US	Beta	1,250
行3	JP	Alpha	700
行4	UK	Alpha	450

列

カラム・ストア

国	US
国	US
国	JP
国	UK
製品	Alpha
製品	Beta
製品	Alpha
製品	Alpha
売上	3,000
売上	1,250
売上	700
売上	450

列

# 行ストアとカラム・ストアの格納イメージ

rowid付イメージ

rowid付表イメージ

rowid	国	製品	売上
001	US	Alpha	3,000
002	US	Beta	1,250
003	JP	Alpha	700
004	UK	Alpha	450

カラム・ストアも行の認識にrowidを利用

行ストア

行1	001
	US
	Alpha
	3,000
行2	002
	US
	Beta
	1,250
行3	003
	JP
	Alpha
	700

カラム・ストア

rowid	001
	002
	003
	004
国	US
	US
	JP
	UK
製品	Alpha
	Beta
	Alpha
	Alpha
売上	3,000
	1,250
	700
	450

# カラム型データベースの基本

## カラム・ストアから行データの实体化

sales\_t 表:カラム・ストア

rowid	001
	002
	003
	004
国	US
	US
	JP
	UK
製品	Alpha
	Beta
	Alpha
	Alpha
売上	3,000
	1,250
	700
	450

```
select * from sales_t;
```



行データの  
实体化

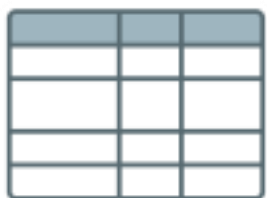
カラム・ストアも行を特定する  
rowidを保有する

rowid付 行データ

rowid	国	製品	売上
001	US	Alpha	3,000
002	US	Beta	1,250
003	JP	Alpha	700
004	UK	Alpha	450

# SQLから見ると行型もカラム型も透過的

行型もカラム型もどちらもリレーショナル・モデルを表現することにより変わりはないため  
**SQLの変更は必要なく**、行型とカラム型表同士の結合処理も可能







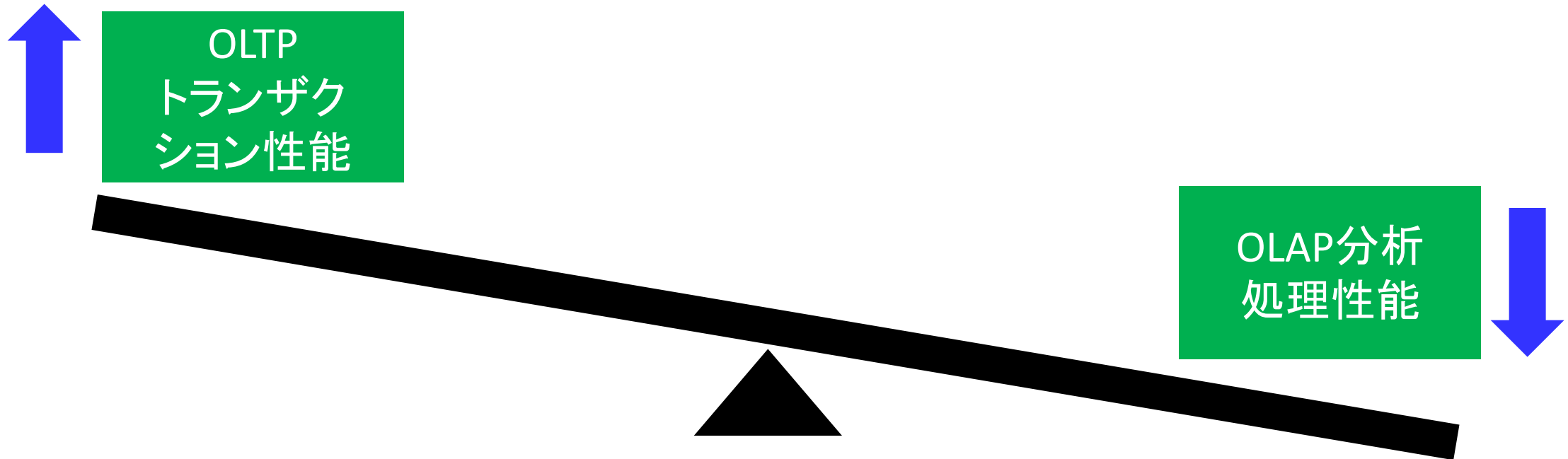
- `select col1 from t1;` ※列単位アクセス
- `select * from t1;` ※行全体アクセス
- `select t1.region, t2.prod_type, sum(t2.amount) from tab_row t1, tab_col t2 where t1.col1 = t2.col1 group by t1.region, t2.prod_type order by 1, 2;` ※結合、集計、ソート
- ....

行型とカラム型表との  
結合処理も可能

# OLTPとOLAPの性能向上はトレードオフ

どちらかを性能向上するとどちらかにオーバーヘッドが発生

OLTPとOLAPを1つのデータベースで共存することは難しい



# Oracle 12c Database In-Memory: デュアル・フォーマット

Oracle 12c Database In-Memoryはデュアル・フォーマットなので、データベースの**オプティマイザがSQLにあわせて最適なフォーマットを選択**してSQLを処理します。(他社のインメモリ機能はハイブリッド型:オブジェクトをどちらの方式にするか決定する必要あり)

```
Select * from sales_t  
Where order_id =  
'ABC123';
```

少数の行の全カラムのデータ  
取得

```
Select region,  
sum(amount) from sales_t  
Group by region;
```

一部カラムを使った大量行  
の集計処理

Oracleデータベース  
オプティマイザ

B-Tree索引を  
使用した処理

インメモリ検索を  
使用した処理

sales\_t表  
デュアル・フォーマット

行型



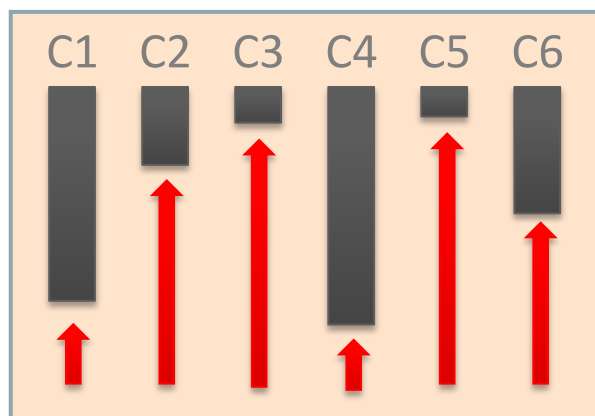
カラム型

# カラム型表は何故分析用クエリーが高速か？

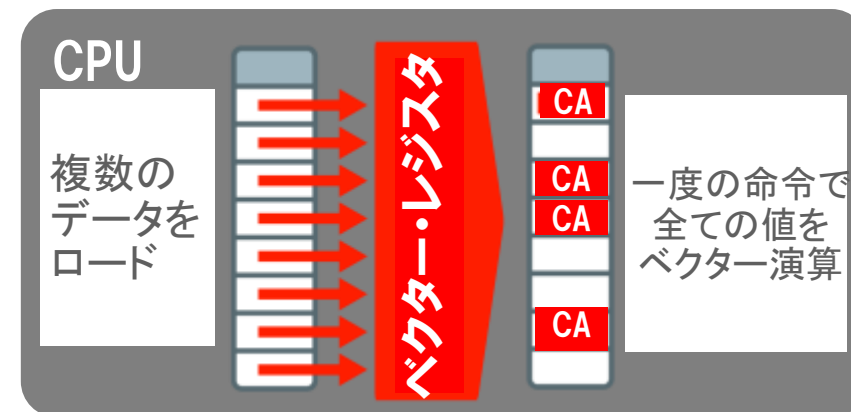
ポイント1:  
集計に**必要なカラムのみ**  
**アクセス** + 効果的な圧縮技術  
により**圧縮した状態**で検索が  
**可能** (ディクショナリ圧縮)

ポイント2:  
インメモリ・ストレージ索引により  
**最小限のIMCUのみスキャン**

ポイント3:  
最新のプロセッサで搭載されて  
いるSIMDにより高速スキャン



例) where storeid > 8



ポイント4:  
パラレル・クエリーとパーティション  
表によりさらに高速化可能

# カラム型表は何故分析用クエリーが高速か？

ポイント1-1: 必要なカラムのみアクセス

バッファ・キャッシュ

COL1	COL2	COL3	COL4
Y			
Y			
Y			
Y			
X	X	X	X

行フォーマット

```
SELECT COL4 FROM MYTABLE;
```



結果



# カラム型表は何故分析用クエリーが高速か？

ポイント1-1: 必要なカラムのみアクセス

インメモリ・カラム・ストア

COL1	COL2	COL3	COL4
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X

カラム・フォーマット

X  
X  
X  
X  
X  
X

```
SELECT COL4 FROM MYTABLE;
```



結果

必要なカラムのみアクセス



データの読込量少ない

# カラム型表は何故分析用クエリーが高速か？

## ポイント1-2: ディクショナリ圧縮

### ディクショナリ圧縮

#### 非圧縮

EMP表のJOB列

-----  
CLERK  
SALESMAN  
SALESMAN  
MANAGER  
SALESMAN  
MANAGER  
MANAGER  
ANALYST  
PRESIDENT  
SALESMAN  
CLERK  
CLERK  
ANALYST  
CLERK

97  
bytes

ソートされた値

ディクショナリ(distinctされた値)

カラム値	ディクショナリ値	ビット表現
ANALYST	0	000
CLERK	1	001
MANAGER	2	010
PRESIDENT	3	011
SALESMAN	4	100

カラム値サイズ合計 + ビット値合計  
→ 36 bytes + 3bit \* 5 = 38 bytes

エンコードされた各行の値

001	100	100	010	100	010	010	000	011	100	001	001	000	001
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

3bit \* 14行 = 5.25bytes → 38 + 5.25 = 44 bytes (1/2.2 圧縮)

ディクショナリ圧縮は  
圧縮した状態で検索  
が可能

Where job = 'MANAGER'



Where job = 010

に内部的に変換

※圧縮状態で検索可能

# カラム型表は何故分析用クエリーが高速か？

ポイント2: インメモリ・ストレージ索引 (※メモリー内に定義される)

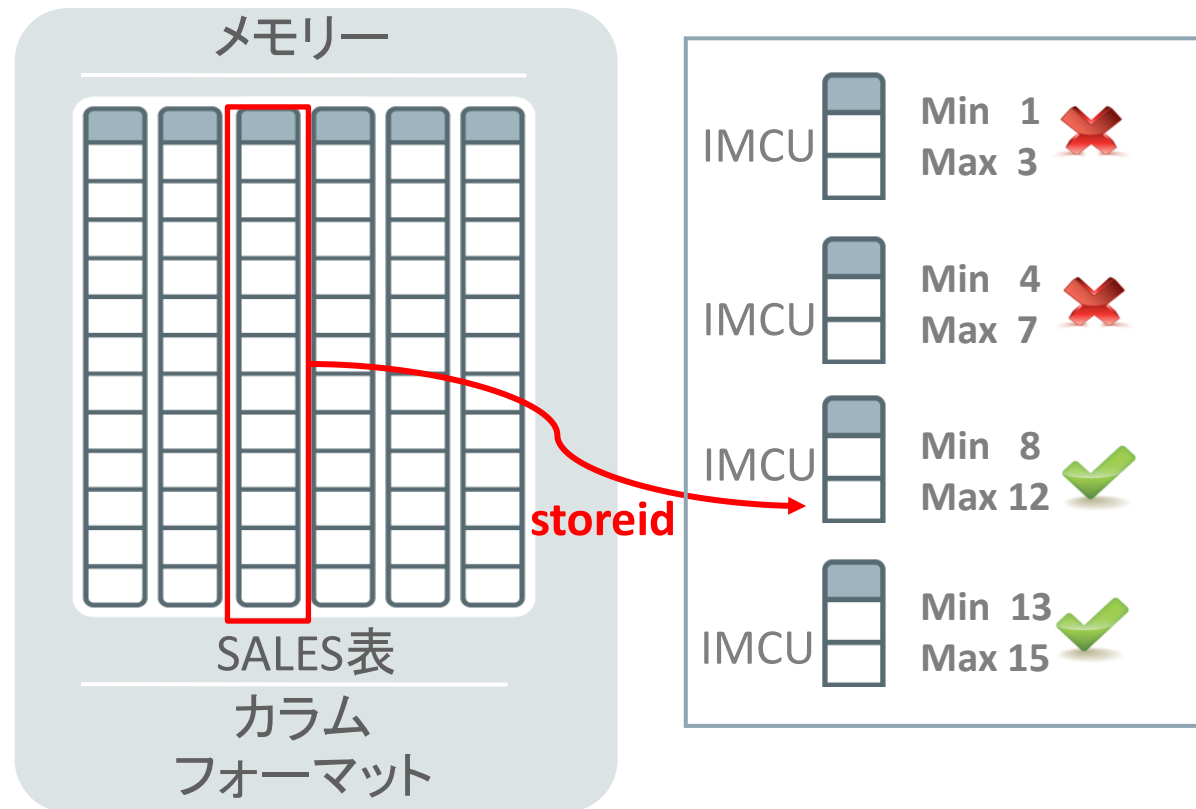
各カラムは複数のカラム・  
ユニット(IMCU)で構成される

各IMCUで最小値/最大値を  
自動的に記録

WHERE句の条件に合致する  
領域だけを読み込み

すべての検索でパーティショ  
ン・プルーニングと同様の  
パフォーマンスを提供

Select ... From stores Where storeid > 8;

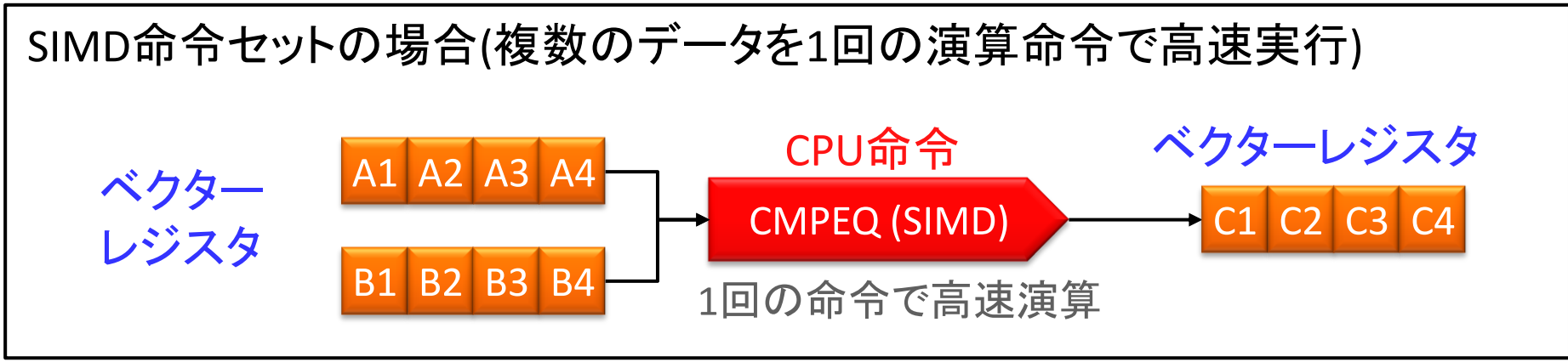
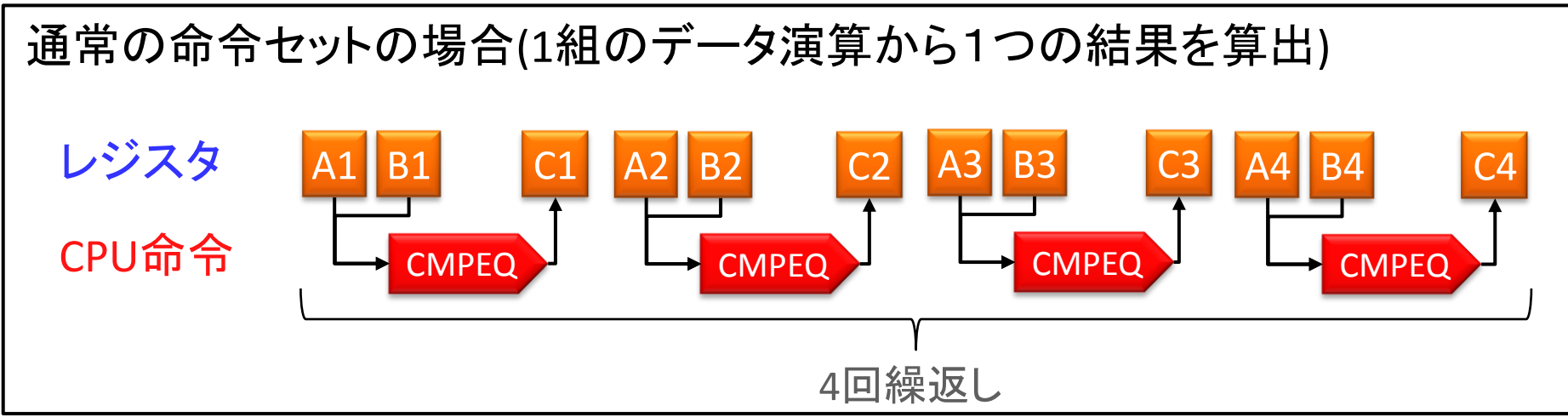
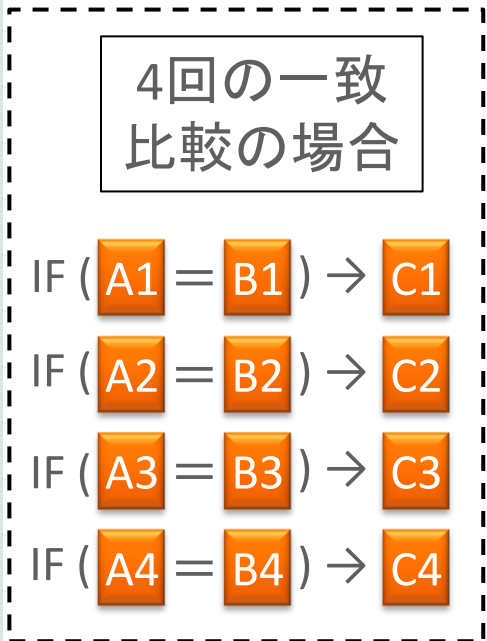


\*1: IMCU - In-Memory Compression Unit

# SIMDによる効果的な演算

ポイント3: 最新のプロセッサで搭載されているSIMD命令セットにより高速スキャン

SIMD: Single Instruction Multiple Data



# カラム型表は何故分析用クエリーが高速か？

ポイント3: 最新のプロセッサで搭載されているSIMDにより高速スキャン

インメモリ・カラム・ストア

JOBカラム値	ディクショナリ値	ビット表現
ANALYST	0	000
CLERK	1	001
MANAGER	2	010
PRESIDENT	3	011
SALESMAN	4	100

001 100 100 010 100 010 010 000 011

EMP表



例: 「MANAGER」職種を検索  
(MANAGER → 010)

SIMD

CPU

複数のデータをロード

ベクター・レジスタ

010  
100  
010  
010  
001  
110  
010  
100

一度の命令で全ての値をベクター演算

ディクショナリ圧縮により  
実データ値をビットデータとして扱うことでより多くのデータをCPUレジスタにロード可能

MANAGER → 010  
(エンコード値)

# カラム型表は何故分析用クエリーが高速か？

ポイント4: インメモリ検索はパラレル・クエリー、パーティション表によりさらに高速化

## インメモリ検索の実行プラン例

Id	Operation	Name
0	SELECT STATEMENT	
1	SORT AGGREGATE	
2	TABLE ACCESS INMEMORY FULL	LINEORDER

- 新しいアクセス方法

TABLE ACCESS INMEMORY FULL

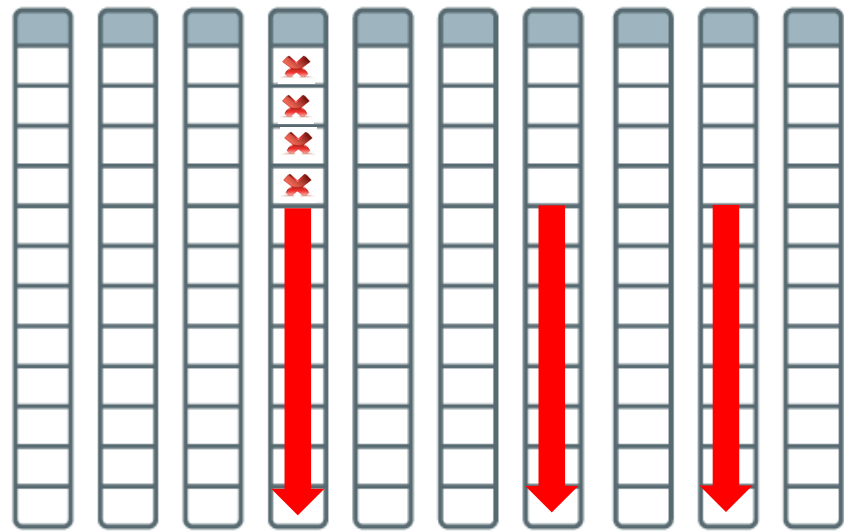
- インメモリ検索を有効／無効化するパラメータ

INMEMORY\_QUERY = {enable | disable}

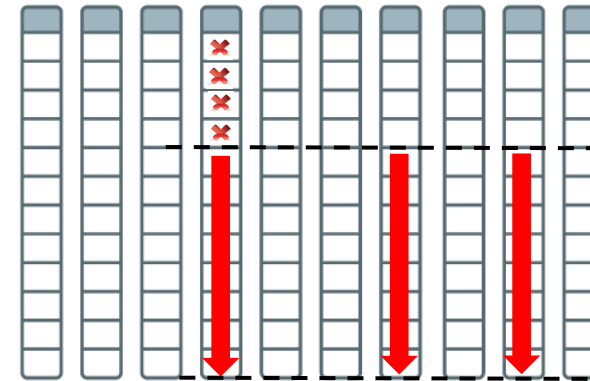
# カラム型表は何故分析用クエリーが高速か？

## ポイント4: インメモリ検索はパラレル・クエリー、パーティション表によりさらに高速化

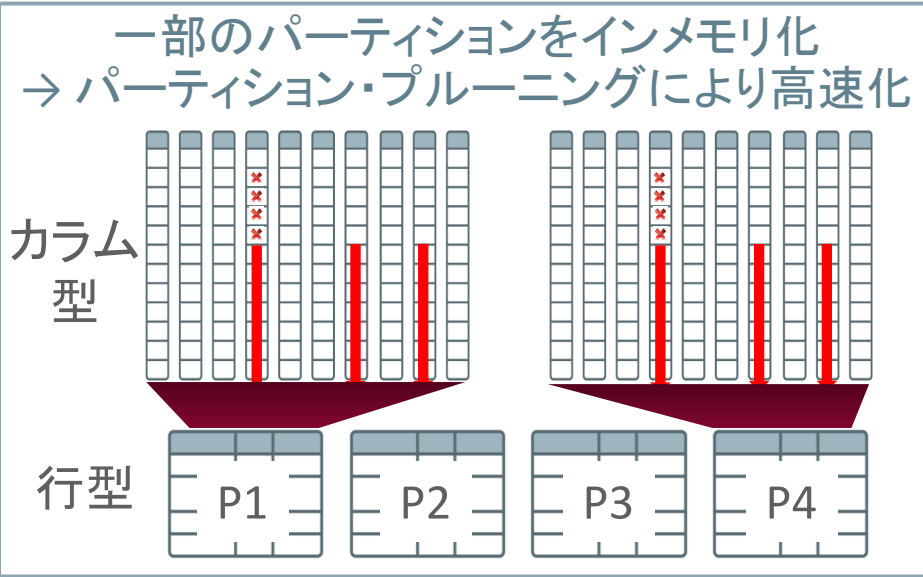
インメモリ・スキャン = TABLE ACCESS INMEMORY FULL



- 基本的にFull Table Scanの発展系
- データはインメモリ・カラム型で圧縮
- 必要なカラムのみアクセス
- インメモリ・ストレージ索引により最低限のIMCUスキャン



パラレル・クエリーでさらに高速化



# Database In-Memoryとパラレル・クエリー

autoDOPはインメモリ構成も考慮してパラレル度を決定

インメモリ・カラム・ストアなので対象データはメモリー内にある



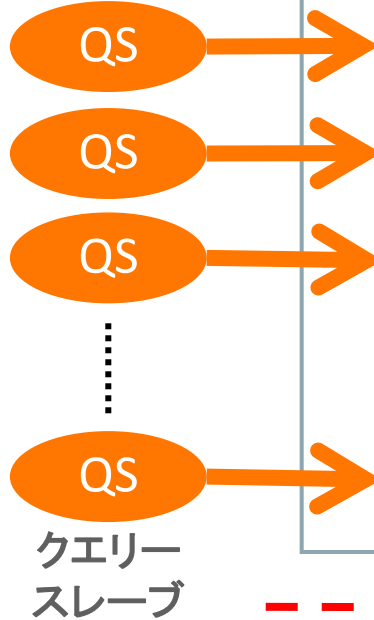
In-Memory Parallel Executionと同様の動き  
(Buffer CacheではなくIMC利用)

+

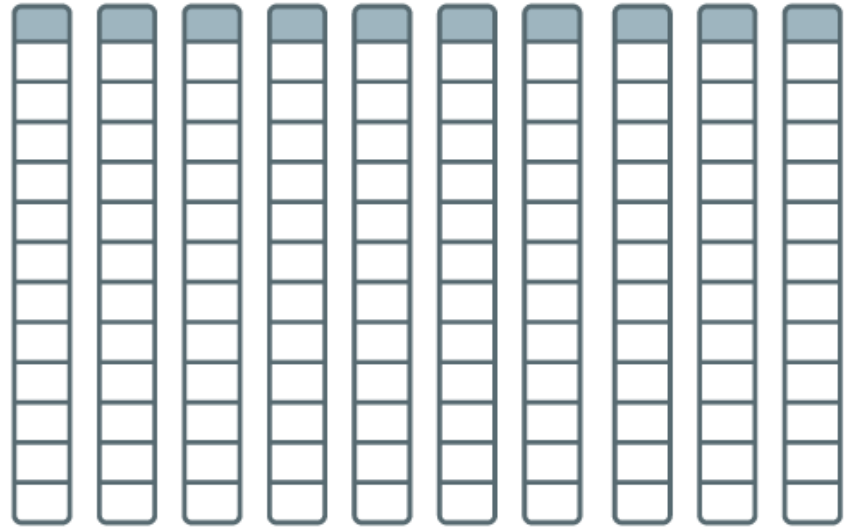
高速なインメモリ検索

- 必要なカラムのみアクセス
- 効果的な圧縮(高速検索)
- 効率的なSIMD利用
- インメモリ・ストレージ索引

メモリー内で  
並列処理



インメモリ・カラム・ストア(IMC)



基本的にディスク  
読込は発生しない



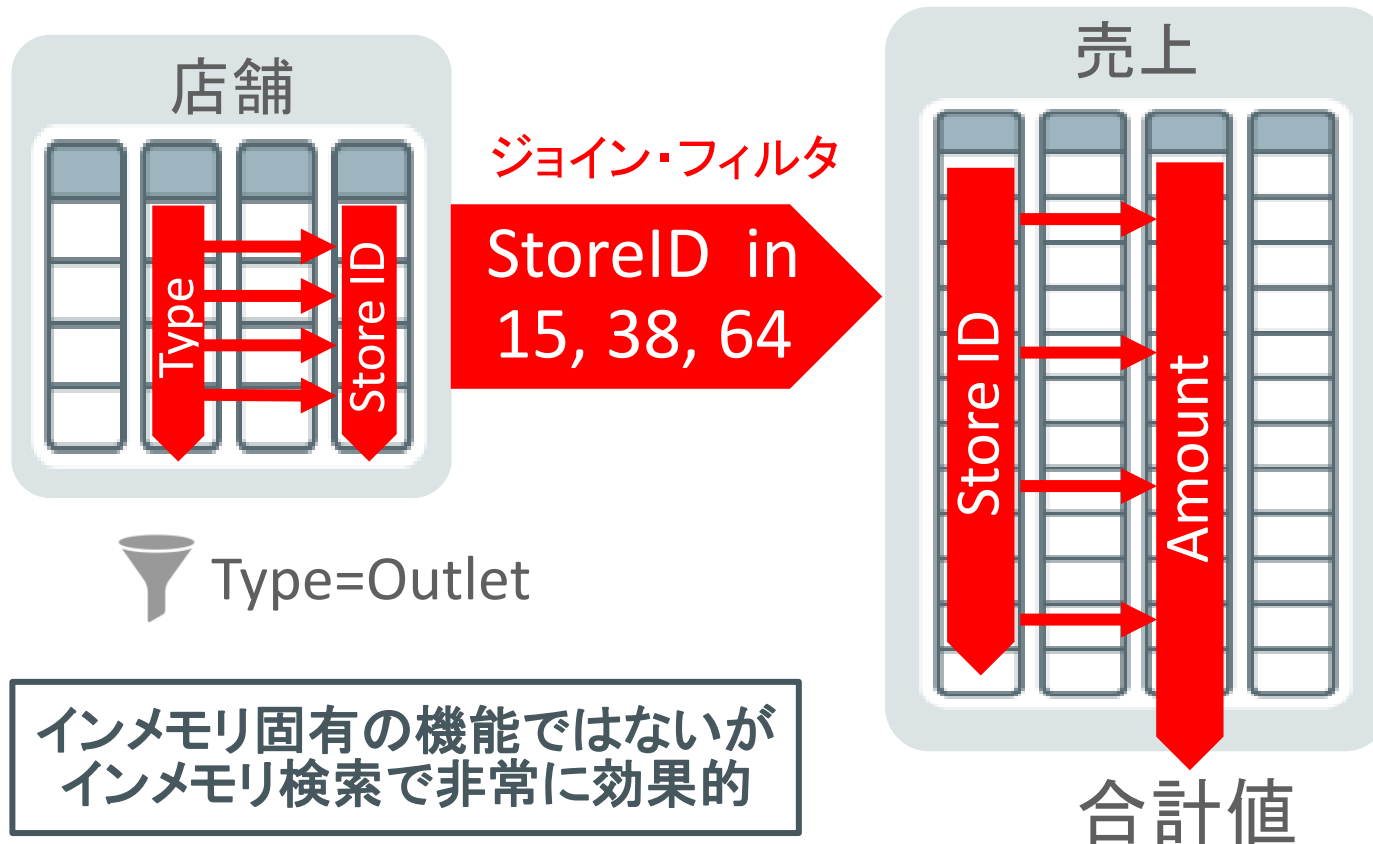
# Agenda

- 1 カラム型データベースの検索処理の特徴
- 2 結合処理(join)
- 3 集計演算処理(aggregation)

# インメモリ検索による表の結合処理の高速化

複数表の結合処理を内部的に高速カラム検索に変換 (ベクター結合)

例: 直販店(outlet)の売上合計を集計



## ■ インメモリ・カラム・ストアにより複数表の結合処理を高速化

1. ジョイン・フィルタと呼ばれるフィルタをカラム検索を使用して作成
  - 店舗表のTYPE='OUTLET' に該当するStoreIDをリスト
2. 作成したジョイン・フィルタの条件にあう売上表のAMOUNTの合計値を計算
  - ジョイン・フィルタから以下の条件を生成「where StoreID in (15, 38, 64)」
  - 上記の条件にヒットする行の売上表単体のカラム検索により高速にAMOUNT列の合計値を算出 (SUM(AMOUNT))

# ベクター結合の実行計画例

Id	Operation	Name
0	SELECT STATEMENT	
1	SORT AGGREGATE	
2	PX COORDINATOR	
3	PX SEND QC (RANDOM)	:TQ10000
4	SORT AGGREGATE	
* 5	HASH JOIN	
6	JOIN FILTER CREATE	:BF0000
* 7	TABLE ACCESS INMEMORY FULL	DATE_DIM
8	JOIN FILTER USE	:BF0000
9	PX BLOCK ITERATOR	
* 10	TABLE ACCESS INMEMORY FULL	LINEORDER

実行SQL)

```
select
sum(lo_revenue*lo_discount)
from lineorder, date_dim
where lo_orderdate = d_datekey
and d_year = 1996;
```

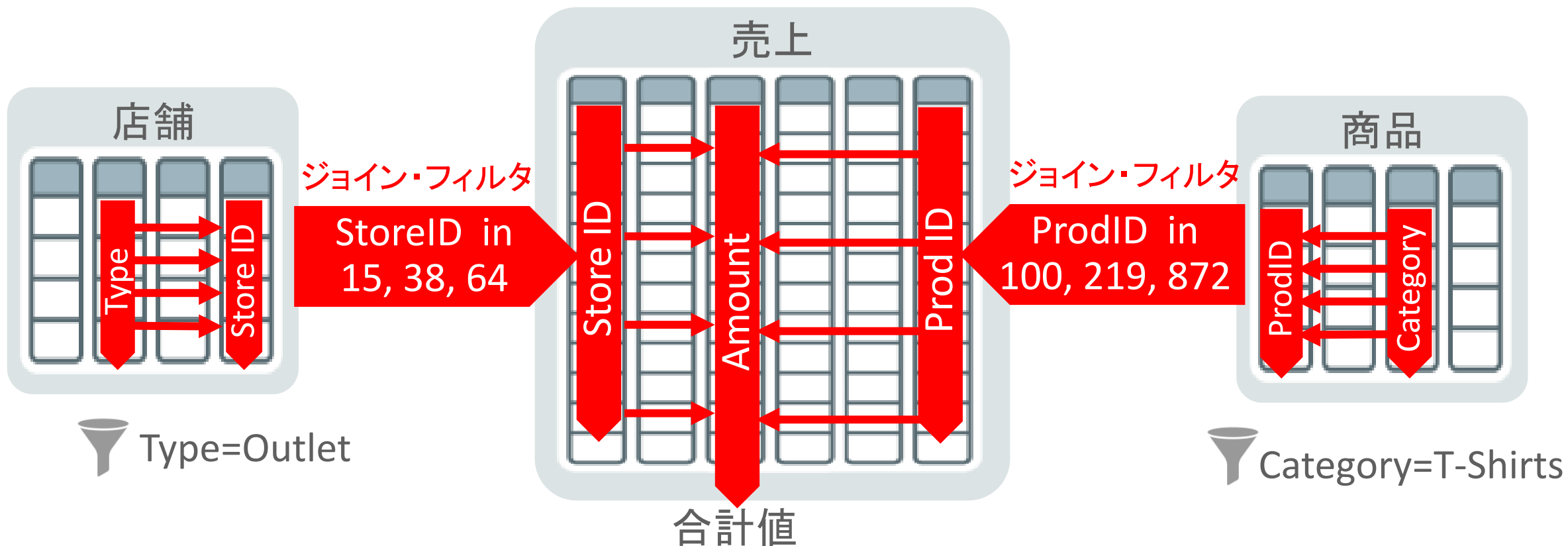
①ジョイン・フィルタ作成(DATE\_DIM)  
※:BF0000 (ブルーム・フィルタ)

②ジョイン・フィルタ利用した  
LINEORDER表のカラム検索  
※この例はパラレル・クエリー実行

# 複数表のベクター結合の実行イメージ

例：直販店(outlet)のT-Shirtsの合計売上を集計

3つの表のジョイン処理を  
売上表の単一のカラム検索に変換



# 複数表のベクター結合の実行計画例

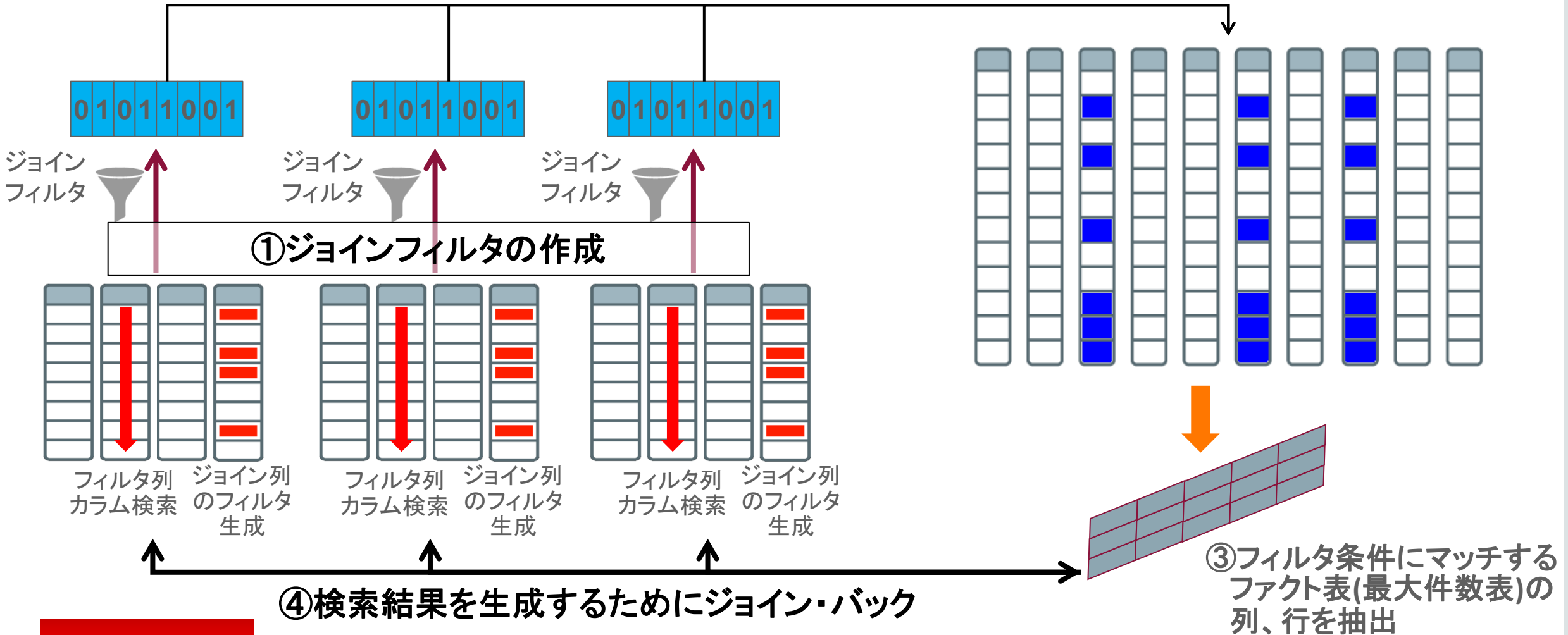
Id	Operation	Name
0	SELECT STATEMENT	
1	PX COORDINATOR	
2	PX SEND QC (RANDOM)	:TQ10001
3	HASH GROUP BY	
4	PX RECEIVE	
5	PX SEND HASH	:TQ10000
6	HASH GROUP BY	
* 7	HASH JOIN	
8	JOIN FILTER CREATE	:BF0000
* 9	TABLE ACCESS IN MEMORY FULL	SUPPLIER
* 10	HASH JOIN	
11	JOIN FILTER CREATE	:BF0001
* 12	TABLE ACCESS IN MEMORY FULL	DATE_DIM
* 13	HASH JOIN	
14	JOIN FILTER CREATE	:BF0002
* 15	TABLE ACCESS IN MEMORY FULL	PART
16	JOIN FILTER USE	:BF0000
17	JOIN FILTER USE	:BF0001
18	JOIN FILTER USE	:BF0002
19	PX BLOCK ITERATOR	
* 20	TABLE ACCESS IN MEMORY FULL	LINEORDER

ジョイン・フィルタ  
作成

ジョイン・フィルタ  
利用

# ジョイン・フィルタを使ったジョイン処理のイメージ

## ②ジョインフィルタの利用



# 通常の結合処理との実行コスト比較

## SQL例

```
Select  p.p_name, sum(l.lo_revenue*1.00212/3.12388832)
From    PART p, LINEORDER l
where   l.lo_partkey = p.p_partkey
        and p.p_name in (
                'hot lavender' , 'violet grey' , 'rose pink',
                'yellow grey' , 'white snow' , 'spring olive'
        )
Group by p.p_name;
```

# 通常的结合処理との実行コスト比較

## インメモリ検索のベクター結合を無効化

	call	count	cpu	elapsed	disk	query	current	rows
SQL> /	Parse	1	0.12	0.12	0	0	0	0
	Execute	1	0.00	0.00	0	0	0	0
	<b>Fetch</b>	2	<b>76.16</b>	<b>76.16</b>	0	7	0	6
	total	4	<b>76.28</b>	<b>76.28</b>	0	7	0	6

**Elapsed: 00:01:18.31**

Id	Operation	Name	Rows	Bytes	Cost	(%CPU)	Time
0	SELECT STATEMENT		6	186	79134	(40)	00:00:04
1	HASH GROUP BY		6	186	79134	(40)	00:00:04
* 2	HASH JOIN		586K	17M	79092	(40)	00:00:04
* 3	<b>TABLE ACCESS INMEMORY FULL</b>	<b>PART</b>	1003	20060	206	(31)	00:00:01
4	<b>TABLE ACCESS INMEMORY FULL</b>	<b>LINEORDER</b>	600M	6294M	74051	(36)	00:00:03



# 通常の結合処理との実行コスト比較

## インメモリ検索のベクター結合を有効化

	call	count	cpu	elapsed	disk	query	current	rows
SQL> /	Parse	1	0.12	0.12	0	0	0	0
	Execute	1	0.00	0.00	0	0	0	0
	<b>Fetch</b>	2	<b>12.48</b>	<b>12.48</b>	0	7	0	6
	total	4	<b>12.61</b>	<b>12.61</b>	0	7	0	6

**Elapsed: 00:00:13.02**

Id	Operation	Name	Rows	Bytes	Cost	(%CPU)	Time
0	SELECT STATEMENT		6	186	79134	(40)	00:00:04
1	HASH GROUP BY		6	186	79134	(40)	00:00:04
* 2	HASH JOIN		586K	17M	79092	(40)	00:00:04
3	<b>JOIN FILTER CREATE</b>	<b>:BF0000</b>	1003	20060	206	(31)	00:00:01
* 4	<b>TABLE ACCESS INMEMORY FULL</b>	<b>PART</b>	1003	20060	206	(31)	00:00:01
5	<b>JOIN FILTER USE</b>	<b>:BF0000</b>	600M	6294M	74051	(36)	00:00:03
* 6	<b>TABLE ACCESS INMEMORY FULL</b>	<b>LINEORDER</b>	600M	6294M	74051	(36)	00:00:03

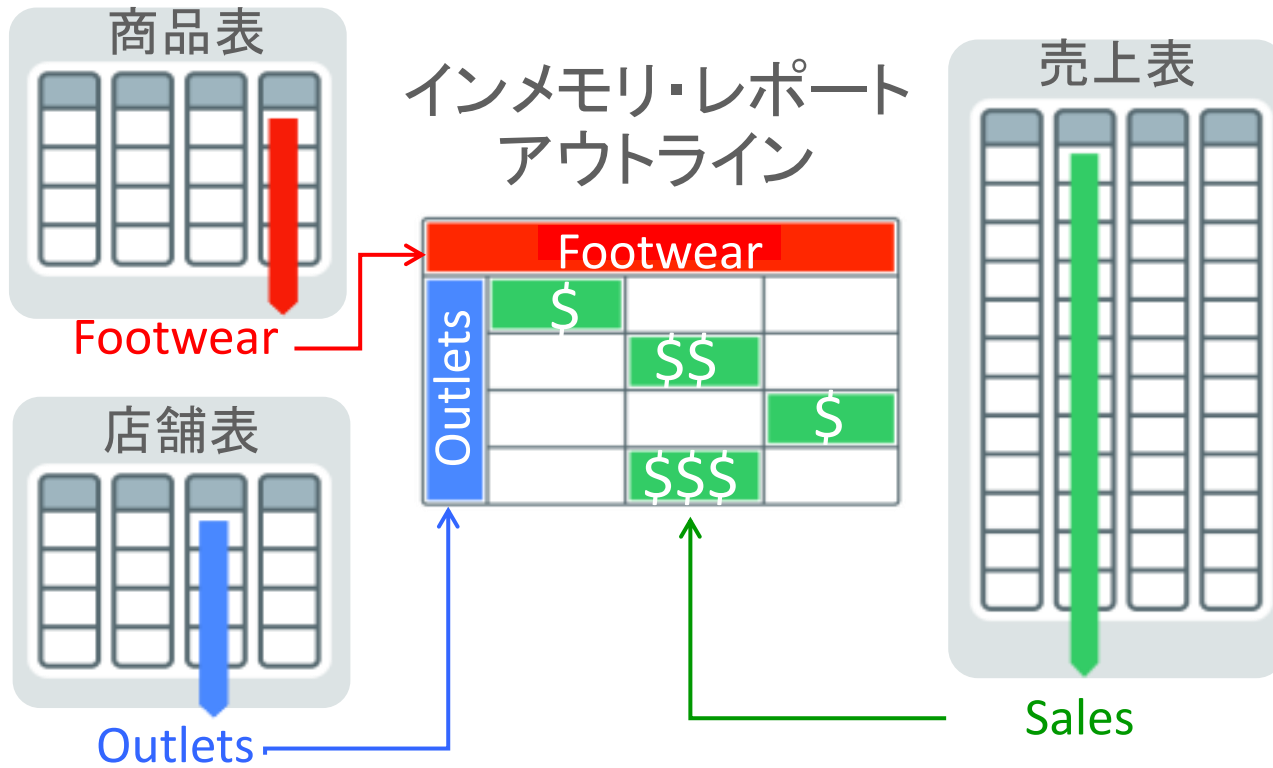
# Agenda

- 1 カラム型データベースの検索処理の特徴
- 2 結合処理(join)
- 3 集計演算処理(aggregation)

# インメモリ検索による表の集計処理の高速化

## ベクターGroup By(Vector Group By)

例: アウトレットでの靴の売上を集計



インメモリ固有の機能ではないが  
インメモリ検索で非常に効果的

- レポート・アウトラインをメモリー上に動的に作成(インメモリ配列)
- レポート内の集計値はファクト表のスキャン中に展開
- 事前定義された多次元キューブを使わずに高速化

# インメモリ集計: 詳細イメージ

例) OutletのFootwearの売上をブランド、地域ごとに集計する

ストア表(Stores)

ID	Name	SType	Region	...
1	ABC	Dept Store	APAC	...
2	XYZ	Outlet	NAS	...
3	CCC	Outlet	EMEA	...
...	...	...	...	...

OutletのFootwearの  
売上をブランド、  
地域ごとに集計

売上表(Sales)

ID	Ord Date	Prod_ID	Store_id	Sales
1	2012/7/2	2	5	10
2	2012/7/14	6	4	20
3	2012/9/25	7	1	8
4	2013/4/8	7	2	5
...	...	...	...	...

商品表(Products)

ID	Name	Category	Brand	...
1	XS-1234	T-Shirt	PUMA	...
2	AJ-2322	Footwear	FILA	...
3	PW-698	Footwear	NIKE	...
...	...	...	...	...

Select st.region, p.brand, sum( s.sales )

From stores st, products p, sales s

**Where st.id = s.store\_id**

**And p.id = s.prod\_id**

**And st.Stype = 'Outlet'**

**And p.category = 'Footwear'**

**Group by st.region, p.brand**

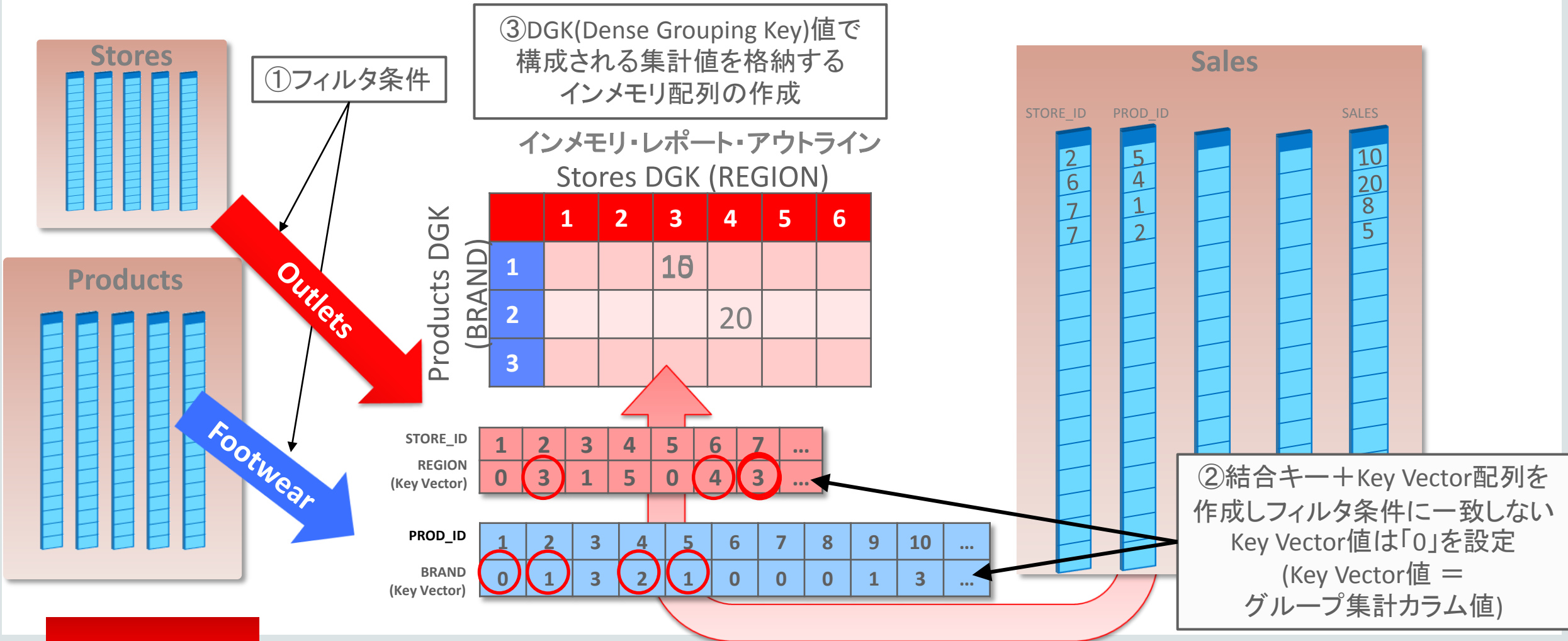
結合キー

フィルタ条件

グループキー  
(Key Vector)

# インメモリ集計: 詳細

革新的な技術: スター・スキーマのジョインと集計処理にメモリー上の配列(インメモリ配列)を使う



## ベクター Group By – 実行例 SQL

```
Select d.d_year, c.c_nation,  
       sum(lo_revenue - lo_supplycost) profit  
From   LINEORDER l, DATE_DIM d, PART p,  
       SUPPLIER s, CUSTOMER C  
Where  l.lo_orderdate = d.d_datekey  
And    l.lo_partkey   = p.p_partkey  
And    l.lo_suppkey   = s.s_suppkey  
And    l.lo_custkey   = c.c_custkey  
And    s.s_region     = 'AMERICA'  
And    c.c_region     = 'AMERICA'  
Group by d.d_year, c.c_nation  
Order by d.d_year, c.c_nation;
```

# 通常の集計処理との実行コスト比較

## 比較結果

### インメモリ検索 – ベクター Group By無効化

**Elapsed: 00:00:51.11**

Statistics

---

<b>456</b>	<b>recursive calls</b>
60	db block gets
<b>15602</b>	<b>consistent gets</b>
105	physical reads
0	redo size
8073	bytes sent via SQL*Net to client
673	bytes received via SQL*Net from client
13	SQL*Net roundtrips to/from client
9	sorts (memory)
0	sorts (disk)
175	rows processed

# 通常を集計処理との実行コスト比較

## 比較結果

### インメモリ検索 – ベクター Group By有効化

**Elapsed: 00:00:28.57**

Statistics

---

<b>90</b>	<b>recursive calls</b>
41	db block gets
<b>132</b>	<b>consistent gets</b>
4	physical reads
3792	redo size
8073	bytes sent via SQL*Net to client
673	bytes received via SQL*Net from client
13	SQL*Net roundtrips to/from client
11	sorts (memory)
0	sorts (disk)
175	rows processed



# まとめ

- インメモリ検索は分析クエリーが高速
  - 余分なカラム読込なし
  - 効果的な圧縮方法 – 圧縮した状態で高速検索 (ディクショナリ検索)
  - 必要最低限の領域(IMCU)のみアクセスするインメモリ・ストレージ索引
  - SIMDによる高速スキャン
  - パラレル・クエリー、パーティション表との相性が良い
- インメモリ化することで結合処理、集計演算も高速
  - ベクター結合(ブルーム・フィルタ)による高速結合処理
  - ベクターGroup By(Key Vector、インメモリ配列)による高速集計処理

# リファレンス

## マニュアル・ドキュメント

- ベクター結合 (Vector Join)

- Oracle® Database データ・ウェアハウス・ガイド 12c リリース1 (12.1)

- ベクトル結合を使用した結合パフォーマンスの向上

[http://docs.oracle.com/cd/E57425\\_01/121/DWHSYG/ch2logdes.htm#CIHGBAFF](http://docs.oracle.com/cd/E57425_01/121/DWHSYG/ch2logdes.htm#CIHGBAFF)

- ベクター Group By (Vector Group By)

- Oracle® Database データ・ウェアハウス・ガイド 12c リリース1 (12.1)

- インメモリ集計

[http://docs.oracle.com/cd/E57425\\_01/121/DWHSYG/aggreg.htm#BCGFFGBA](http://docs.oracle.com/cd/E57425_01/121/DWHSYG/aggreg.htm#BCGFFGBA)

- Oracle® Database SQL チューニング・ガイド 12c リリース1 (12.1)

- 5.7 インメモリ集計

[http://docs.oracle.com/cd/E57425\\_01/121/TGSQL/tgsql\\_transform.htm#BABFGAE](http://docs.oracle.com/cd/E57425_01/121/TGSQL/tgsql_transform.htm#BABFGAE)

# **Hardware and Software Engineered to Work Together**

ORACLE®